

経済・金融
フラッシュ米個人所得・消費支出(24年5月)
コア PCE 価格指数(前月比)は前月から低下、インフレ鈍化を確認

経済研究部 主任研究員 窪谷 浩

TEL:03-3512-1824 E-mail: kubotani@nli-research.co.jp

1. 結果の概要:個人所得(前月比)は市場予想を上回る一方、個人消費は市場予想を下回る

6月28日、米商務省の経済分析局(BEA)は5月の個人所得・消費支出統計を公表した。個人所得(名目値)は前月比+0.5%(前月:+0.3%)と前月を上回ったほか、市場予想(Bloomberg集計の中央値、以下同様)の+0.4%も上回った(図表1)。個人消費支出は前月比+0.2%(前月改定値:+0.1%)と+0.2%から小幅下方修正された前月を上回った一方、市場予想の+0.3%は下回った。価格変動の影響を除いた実質個人消費支出(前月比)は+0.3%(前月:▲0.1%)と前月からプラスに転じた一方、市場予想の+0.3%に一致した(図表5)。貯蓄率¹は3.9%(前月:3.7%)と前月から+0.2%ポイント上昇した。

価格指数は、総合指数が前月比横這い(前月:+0.3%)と前月を下回った一方、市場予想(横這い)に一致した。変動の大きい食料品・エネルギーを除いたコア指数は前月比+0.1%(前月改定値:+0.3%)と+0.2%から小幅上方修正された前月から低下、市場予想(+0.1%)に一致した(図表6)。前年同月比は総合指数が+2.6%(前月:+2.7%)と前月から低下、市場予想(+2.6%)に一致した。コア指数は+2.6%(前月:+2.8%)とこちらも前月から低下、市場予想(+2.6%)に一致した(図表7)。

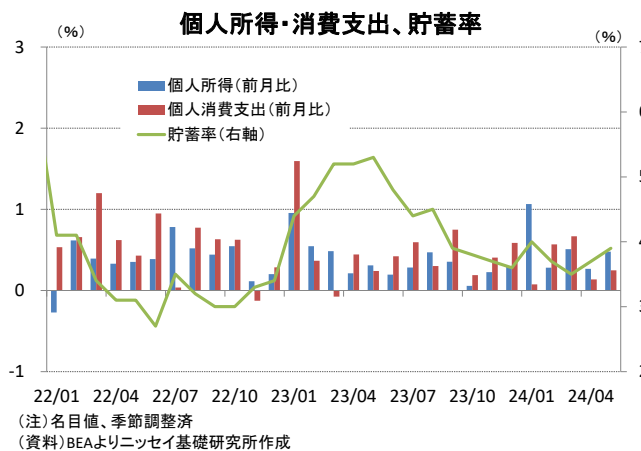
2. 結果の評価:コアPCE価格指数(前月比)は20年11月以来の水準に低下

個人消費(前月比)の名目ベースは4月に大幅な低下がみられたものの、5月は財消費の回復に伴い幾分持ち直した(図表1)。さらに実質ベースでも前月のマイナスからプラスに転じるなど回復を示した。

個人所得(前月比)は5月の賃金・給与が+0.7%と高い伸びとなったこともあって、こちらも前月から上昇した。また、可処分所得の伸びが個人消費の伸びを上回った結果、貯蓄率が2ヵ月連続で上昇した。

一方、FRBが物価指標としているPCE

(図表1)



¹ 可処分所得に対する貯蓄(可処分所得-個人支出)の比率。

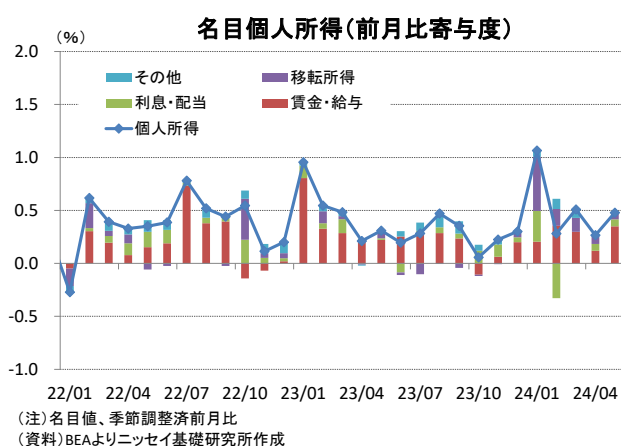
価格指数の前月比は総合指数では横這いとなったほか、物価の基調を示すコア指数も20年11月以来の水準に低下するなど、5月は物価上昇圧力が和らいでいることを確認した。もっとも、前年同月比では総合指数、コア指数ともに前月から低下したものの、依然としてFRBの物価目標である2%を上回っており、FRBが早期の利下げを開始する可能性は低い。

3. 所得動向:賃金・給与の伸びが大幅に加速

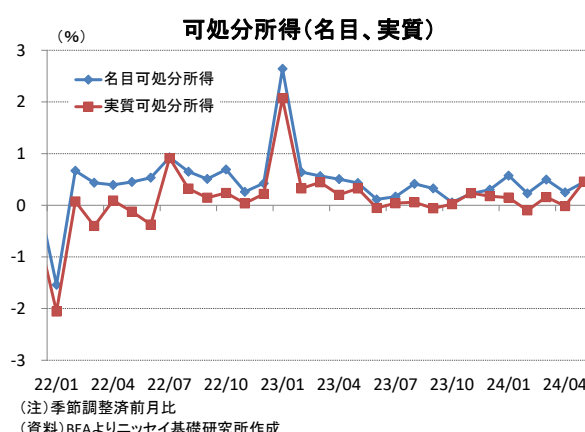
5月の個人所得（前月比）では、賃金・給与が23年11月以来の伸びに鈍化した前月から、5月は+0.7%（前月：+0.2%）と大幅に加速し、24年2月以来の水準に回復した（図表2）。また、利息配当収入が+0.4%（前月：+0.4%）、移転所得が+0.4%（前月：+0.4%）と前月並みの伸びを維持した。一方、自営業者所得は▲横這い（前月：横這い）とこちらは小幅ながら前月からマイナスに転じた。

個人所得から税負担などを除いた可処分所得（前月比）は、5月の名目が+0.5%（前月：+0.3%）と前月から伸びが加速した（図表3）。また、価格変動の影響を除いた実質ベース（前月比）は+0.5%（前月：▲横這い）と前月からプラスに転じた。

（図表2）



（図表3）



4. サービス消費の伸びは鈍化も財消費が回復

5月の名目個人消費（前月比）は、サービス消費が+0.3%（前月：+0.4%）と前月から小幅ながら伸びが鈍化した一方、財消費が+0.2%（前月：▲0.5%）と前月からプラスに転じるなど財消費が回復した（図表4）。

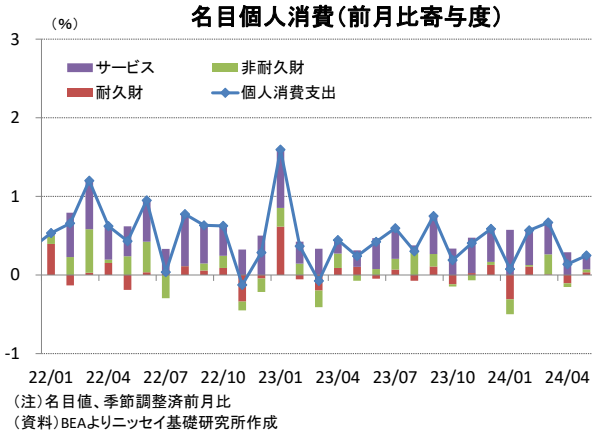
財消費は、耐久財が+0.3%（前月：▲0.9%）、非耐久財が+0.2%（前月：▲0.2%）といずれも前月からプラスに転じた。

耐久財では、自動車・自動車部品が▲横這い（前月：+0.2%）と前月から小幅ながらマイナスに転じた一方、家具・家電が▲0.1%（前月：▲0.6%）とマイナス幅が縮小したほか、娯楽財・スポーツカーが+0.9%（前月：▲2.2%）とプラスに転じて耐久財消費全体を押し上げた。

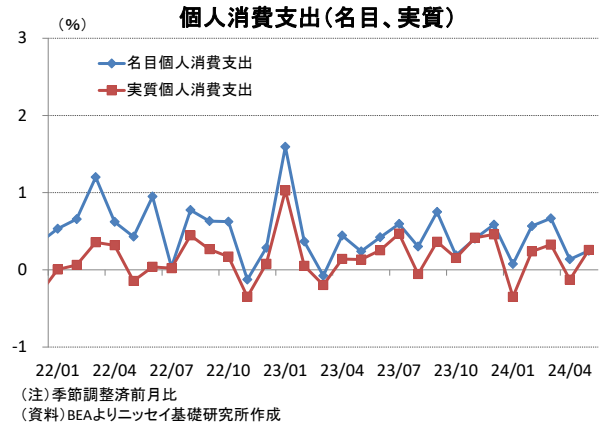
非耐久財ではガソリン・エネルギーが▲2.1%（前月：+1.1%）と前月からマイナスに転じた一方、食料・飲料が▲0.1%（前月：▲0.3%）とマイナス幅が縮小したほか、衣料・靴が+0.8%（前月：▲横這い）とプラスに転じて非耐久財消費全体を押し上げた。

サービス消費は、輸送サービスが+0.7%（前月：▲2.0%）と前月からプラスに転じたほか、医療サービスが+0.9%（前月：+0.5%）と伸びが加速した。一方、住宅・公共料金が+0.3%（前月：+0.5%）と前月から伸びが鈍化したほか、金融サービスが▲0.1%（前月：+0.9%）、外食・宿泊が▲0.3%（前月：+0.3%）、娯楽サービスが▲横這い（前月：+0.5%）と前月からマイナスに転じた。

(図表 4)



(図表 5)

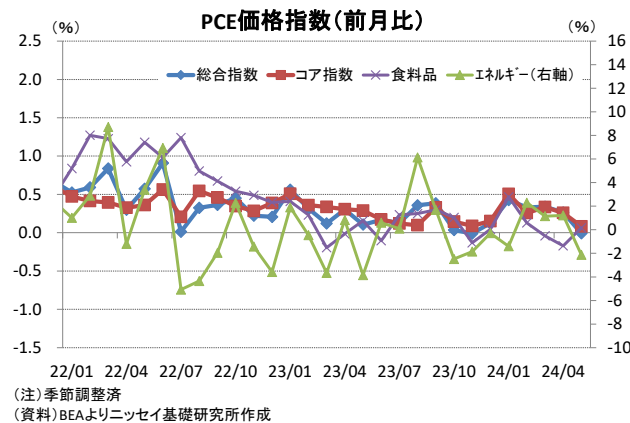


5. 価格指数:エネルギーは前月比でマイナスに転じた一方、前年同月比は前月から上昇

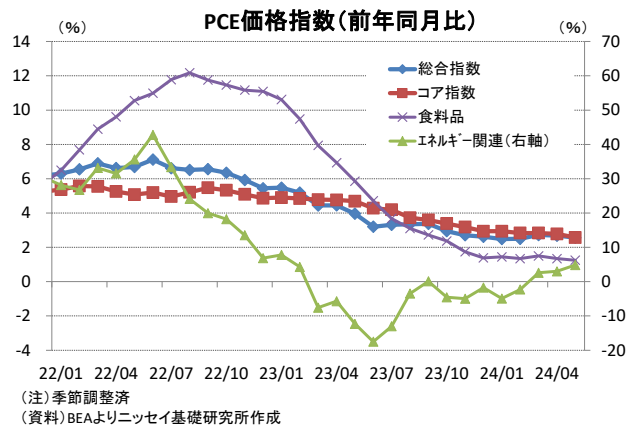
価格指数（前月比）の内訳をみると、エネルギー価格指数が▲2.1%（前月：+1.2%）と4ヵ月ぶりにマイナスに転じた（図表6）。一方、食料品価格指数は+0.1（前月：▲0.2%）とこちらは3ヵ月ぶりにプラスに転じた。

前年同月比は、エネルギー価格指数が+4.8%（前月：+3.0%）と3ヵ月連続でプラスとなったほか、前月からプラス幅が拡大した（図表7）。食料品価格指数は+1.3%（前月：+1.3%）と前月並みの伸びを維持したほか、83ヵ月連続でプラスを維持した。

(図表 6)



(図表 7)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません